

## ●2015年ホーチミン市日本語教育国際シンポジウム

(2015年9月19日～20日；ベトナム：ホーチミン)

報告者：カオ・レ・ユン・チー（ホーチミン市師範大学，主催者）

ベトナムでは近年、日本語学習者数が急激に増加している。国際交流基金によると2012年には日本語学習者が46,762人に達し、より効率的な日本語教育体制が必要とされている。一方で、以前から教師の不足、教師の質の向上などの問題にも直面している。これらの課題に取り組むためには、一つの機関又は一つの国だけでは情報量も経験もまだ十分とは言えない。しかしながら、日本語教育に関して共通点の多い東南アジア域内のネットワークを構築し、ともに課題に取り組むことができれば、一つの有効な解決策になると思われる。そこで、東南アジア及び日本を中心とした日本語教育者間の情報交換の場として、「東南アジアの日本語教育の役割—グローバル人材育成とつながるネットワーク—」という2日間のシンポジウムを計画した。

1日目は講演、パネルディスカッション、分科会が行われ、ベトナム国内外の日本語教師、学生など400人近くが参加した。講演者及び発表者は、大阪大学、早稲田大学、国立国語研究所、和歌山大学、武蔵野大学など、ホーチミン市師範大学と日頃から関係の深い大学や協定校の先生、学生が中心となった。特に、東南アジア9ヶ国から集まった日本語教育者によるパネルディスカッションでは、カリフォルニア大学サンディエゴ校の當作靖彦教授を進行役に、各国における日本語教育の現状、将来の展望を話し合うことができた。これまであまり知られていなかったカンボジア、ラオス、ミャンマーの日本語教育の状況を垣間見ることができたのは一つの成果と言える。グローバル人材育成のために日本語教師の育成や質の向上、また今後のネットワーク作りについて多くの改善策が討議された。

2日目は東南アジア8ヶ国の学生による日本語スピーチコンテストで、約900人が来場した。企業の採用担当者に日本語教育機関が育てた優秀な人材を見せるとともに、このような学習者をさらに生み出していくためには、教師自身の努力、東南アジア各国の日本語教師が互いに助け合うこと、日本からの支援も大切であることを伝える目的で行われた。

2日間のシンポジウムで明らかになったのは「日本語教育の発展を支えるためには、日本語教師の養成と教師研修が組織的に行われることが必須である」ということである。また参加者からは「講演、パネル、コンテスト、心のこもったおもてなしなど、全ての点において感動の連続」「色々な研究を聞かせて頂いた。多くの方との交流もでき、有益な情報を聞くこともできた」などの感想がよせられた。

シンポジウムで得た結果を踏まえて、2016年1月22日～24日、ベトナム南部の日本語教師を対象とする第1回目の教師研修が開催された。今後、4月、7月、12月と年4回行う予定である。次回からは、ベトナム全土及び東南アジアの教師も参加できるように準備している。シンポジウムでできた東南アジアのつながりを活かし、教師育成及び教師研修を着実に実施しながら、ベトナムの日本語教育が抱える課題を少しずつ解決していきたい。